

ここ数年プラスチックゴミが海洋に流れ、自然環境に大きな影響を及ぼしていることを知っていますか。近頃そのことがメディアに取り上げられ、社会の大きな問題の一つとなつていきます。海に捨てられているゴミの内訳で、最も多いのがプラスチックゴミ、いわゆる「使い捨てプラスチック」です。毎年、800万トンのプラスチックゴミが海に流れて、2050年には海洋プラスチックゴミが海に上ると言われています。

私が海洋プラスチックについて考えるようになったきっかけは、私の住んでいる近くの川に、食べ残しとプラスチックの容器がそのまま捨てられていたり、ビニール袋やプラスチック製の菓子袋が捨てられていたりすることを目にしたからです。プラスチックゴミが海洋に流れ、環境に悪影響を及ぼしていることと同じようなことが私の周りのすぐ近くでも起こっているのだと危機感を覚えました。

このようなプラスチックゴミは比較的短時間しか使われず、捨てられます。そんな必要となつた多くのプラスチックはリサイクルに回されず、ですが、回収されたプラスチックのうち、リサイクルできないのは一部で、回収されたゴミは汚れや混合物が多く、業者が求める高水準の製品を作るのは不可能です。回収されたプラスチックのほとんどが焼却されます。そして、土地や河川、海に直接投棄されることもあります。

そんな河川や海に流れたプラスチックを動物があやまって飲み込んでしまふ、命を落としたり、動物の体に刺さるなど、生態系を崩してしまいます。魚や鳥、アザラシ、亀などの動物が人間の思いもなく捨てられたプラスチックゴミにからまったり、そのゴミを使って住みかを作つて生活している様子を見て、非常に心が苦しくなります。人と動物と物が共存していくことは悪いことではありませんが、人の犯した過ちと動物が共存することはあつてはならないと思います。海や河川に軽い気持

ちで投げ捨てられたゴミは、地球を様々な方向でむしばんでいます。確かにプラスチックが普及したことにより、人間の生活は豊かになりました。プラスチックは様々な形に変形することが可能なため、なかなか他の者では代用しづらいことが現状だと思えます。微生物が食べたり自然に完全に還る「生分解性プラスチック」の開発が進めば、現状はよくなるかもしれないと思つては、研究者でない限り、私たちに使えない話です。今、私たちにできるのは、プラスチックをなるべく使わない生活に変えることです。これは、プラスチック問題を語るべきに、よく言われるため聞き流しがちですが、本当に大切なことです。マイボトルやマイバックを使い、プラスチックの利用を減らすことで、マイボトルやマイバックを使わず、マイバックについて、ビニール袋が普及する前は、買い物かごを使っていたのです。プラスチックが普及していません。マイボトルを持つことで、「わざわざ」ペットボトルで買う必要もなくなるため、お金も使わなくて良くなります。

自己の普段の行動を見直して、多くの人が行えば、世界の問題も良い方向へ変わっていくと思えます。目の前のプラスチックの便利さだけにとらわれず、自分の行動に責任を持つことが大切ではないでしょうか。